

医学系レファレンスの集い

牛澤 典子¹⁾，小林 晴子²⁾，菅 修一³⁾，母良田 功⁴⁾，林 賢紀⁵⁾

¹⁾東邦大学医学メディアセンター，²⁾愛知医科大学医学情報センター（図書館），

³⁾滋賀医科大学附属図書館，⁴⁾昭和薬科大学図書館，⁵⁾農林水産研究情報センター

今日の医学系図書館では、PubMed・医中誌 WEB などのデータベース、電子ジャーナル、機関リポジトリなど様々な課題であふれています。それらのサービスによって利用者を支えていながら、“レファレンス”ということばで捉えなおす余裕がないのが現状ではないでしょうか。「医学図書館」誌の“レファレンス事例集”が大変好評をもって読まれているのがそれを証明しているように思います。そこでまずこのコーナーの担当者である小林さん、菅さんからコーナー立ち上げの経緯や現状分析などお話を伺います。日本薬学図書館協会の取り組みについても母良田さんからお話しいたします。

また、2005 年に開始された国立国会図書館のレファレンス協同データベース (<http://crd.ndl.go.jp/>) は館種によらずレファレンス事例や調べ方マニュアルを登録することができ、その中で公開されているものは誰でも閲覧することができます。医学系図書館の参加館はまだほとんどなく認知度も低いと思われるので、今回その有効性をぜひ知ってもらいたいと思います。

「レファレンス協同データベース事業」に参加すると・・・

(NDLパンフレット「レファ協いかがですか」より抜粋)

- 他館のレファレンス事例や情報の調べ方案内などのデータを活用し、レファレンス業務の参考として役立てることができます。
- 自館のレファレンス業務の管理ツールとしてもお使いいただけます。

レファレンス協同データベースでは、個々のデータごとに「公開レベル」を定めることができます。公開レベルを「自館のみ参照」にすれば、自館で受けたレファレンス事例を担当者同士で共有するためのデータベースとして館内だけで使うことも可能です。

- データベースに登録したデータを活用すると、ホームページなどで簡単にレファレンスサービスの PR ができます。

さらにレファレンス協同データベースに登録したデータの公開レベルを「一般公開」にすると、各データに固有の URL が付与されます。自館のホームページに、この URL にリンクを貼れば、簡単にレファレンス事例集を作ることができます。

このデータベースを有効活用しておられる農林水産研究情報センターでの運用事例を林さんから報告していただきます。

けれどもこのようなデータベースへの参加は敷居が高いとお思いになる図書館・図書室もあるかもしれません。医学系レファレンスを広く共有し、より良いものとするにはどうするのか、皆さんと語り合う時間にしたいと思います。ぜひお集まりください。

